

# 令和7年度卒業証書・学位記授与式式辞

学 長 森 下 宏 美

本日、晴れて北海学園大学を卒業される学生のみなさん、大学院を修了されるみなさん、まことにおめでとうございます。また、今日まで温かく見守られ、ご支援を惜しまれなかったご家族・関係者のみなさまにも、心よりのお祝いを申し上げます。

ここに、学校法人北海学園安酸敏眞理事長をはじめ、ご来賓のご列席のもと、令和7年度北海学園大学卒業証書・学位記授与式を挙行できますことを、たいへん嬉しく思います。

みなさんが入学された当初は、まだ新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のための厳しい行動制限が課せられていましたので、不安とともに始まった大学生活でした。その後、新型コロナウイルス感染症が「5類感染症」になったことにより、行動制限はなくなりましたが、コロナ禍以前の学生生活を取り戻すためには、多くの努力が必要でした。みなさんは手探りでその努力を重ねてきました。そのおかげで、北海学園大学の文化というべきものが継承され、また、新たな活動も生まれました。そのみなさんの努力に、心から敬意を表したいと思います。

北海学園大学での学生生活を終えた今、みなさんは、それぞれに、自分自身の成長を実感されていることと思います。また、生涯の友となる人たちとの出会いもあったでしょう。若い時期に仲間と過ごした濃密な時間は、生涯忘れがたい記憶となるに違いありません。そしてみなさんは、本日の「卒業」をもって、仕事を通じてさまざまな人々と関わりながら生活を営む現場としての社会へとスタートを切ります。そこが、これからのみなさんにとっての成長の場、学びの場となります。

社会がいま大きな転機を迎えている中、みなさんには、未来を切り拓き、よりよい社会を築くための挑戦が待ち受けています。社会の存立そのものを脅かす地球温暖化や人口減少の進行、情報発信やコミュニケーションのあり方に多大な影響を及ぼす SNSの普及、仕事や生活のあり方を大きく変える ICTや AIの発達、グローバル化の進展など、私たちはいま、このような新しい現実と向き合っています。今まで経験したことのない現実に向かい、その先により社会を築いていくためには、新しい知恵の創造と、その知恵を活かす人々の協働が必要です。みなさんは、大学での学びを通じて、学問する心と力を身につけました。その学問とは、他者と共有できる新しい知を生み出そうとする活動に他なりません。それは決して、学者や研究者だけがする閉ざされた営みではありません。

最近の社会の様子を見ておりますと、協働ではなく分断を助長しかねない事態が広まっているように思います。自分の考えをけんか腰でぶつけ合うような言論、ないことをあるかのごとく、あることをないかのごとくに喧伝する言説、AIを用いて作成された精巧な偽情報、このようなものが、SNSを通じて瞬時に広まるという現実があります。このような現実を見るにつけ、学問する心と力の大切さを思わざるをえません。みなさんには、学問をも生涯の友として、よき人生を歩んでほしいと願っています。

「一回きりの人生をどう使うか。やろうと思えば何でもできる。たくさん学び、語り合って、悔いなく生きてほしい。」これは、北海学園大学の卒業生で、この3月に100歳になられ、自らの戦争体験、シベリア抑留体験の語り部として活動されている神馬文雄さんの、若い人たちに対するメッセージです。大先輩のこの言葉を、どうか心の中に刻んでいただきたいと思います。

最後に、みなさんの未来が明るく輝かしいものであることを心からお祈り申し上げ、お祝いの言葉といたします。